

「えひめ食・観光・農林漁業プラットフォーム」 体験型観光勉強会開催レポート(2025 年 9 月 25 日開催)

愛媛県では、地域課題解決と経済活性化を目指し、多様な主体が連携・協働する「えひめ版政策エコシステム」の構築を進めています。その取り組みの一環として体験型観光勉強会を 2025 年 9 月 25 日(木)に開催しました。



1. 体験型観光勉強会の概要

- 日時: 2025 年 9 月 25 日(木)13 時 30 分～17 時 00 分
- 場所: 愛媛県男女共同参画センター 1階多目的ホール
- 一般参加者数: 38 名

2. 当日のプログラム

● 第 1 部:講演会

- 演題: 地域の特性を生かした観光地づくりと資源の磨き方
- 講師: 四国ツアーズ株式会社 出尾 宏二氏
(プロフィール)



徳島県小松島市生まれ。
四国ツアーズ株式会社地域コーディネーター。
主に中四国をフィールドにインバウンド誘客、着地型商品の造成と販売など観光地域づくりに多くの地域と関わっている。
「一般社団法人そらの郷」事務局次長として、にし阿波各地の市町村や観光事業者及び地域の方々と、協働して体験プログラムや着地型旅行商品の開発を観光圏事業の観光地域づくりマネージャーとして 持続可能な観光地域づくりの理念のもと活動。
「日本三大秘境」の一つである徳島県祖谷地区の外国人宿泊者数を 10 年で 34 倍にまで押し上げた立役者。

○ 講演内容

講演では、出尾氏より「観光地づくり」ではなく、観光を通じて地域そのものを豊かにする「観光地域づくり」の重要性が示されました。

観光の目的は地域住民の幸せと誇りの醸成にあり、住民が笑顔でなければ地域は持続しないとの考えが示されました。

徳島県祖谷地域における「暮らしのある風景」を観光資源とした事例や、「おばあちゃんツーリズム」など素朴な交流を通じた高収益モデルが紹介され、景観や施設ではなく「暮らし」や「交流」を資源化する視点の有効性が語られました。

また、地域に共感し何度も訪れるファン層を育てる「ファン・マーケティング」の推進や、研修・教育旅行などレジャー以外の来訪者の受け入れ、若者を巻き込んだ文化継承の重要性にも触れ、地域の「ありのままの暮らし」に価値を見出すことが、持続可能な観光の鍵であると締めくくられました。

● 第2部：トークセッション

○ 進め方・概要

第1部講演に続き、参加者との質疑応答・意見交換を交えたトークセッションが行われました。「勉強会」という位置づけのもと、主体的に議論を深める場としました。

○ 主な内容

愛媛県における観光振興の方向性、地域資源の活用、インバウンド対応、そして持続可能な地域づくりをテーマに活発な議論が展開されました。

出尾氏からは、「便利さだけが価値ではない」「共感を生む体験こそが観光の本質である」との考えが示され、地域の暮らしや自然を生かした観光のあり方が提案されました。

また、参加者からは農業・林業・教育旅行などの現場課題が共有され、出尾氏はそれぞれに対し、地域資源を磨き、体験として価値化する視点や、無理のないインバウンド対応の重要性を助言しました。

議論の中では、地域住民の所得向上や若者の参画、域内経済循環の促進といった持続可能な仕組みづくりが鍵であることが確認されました。

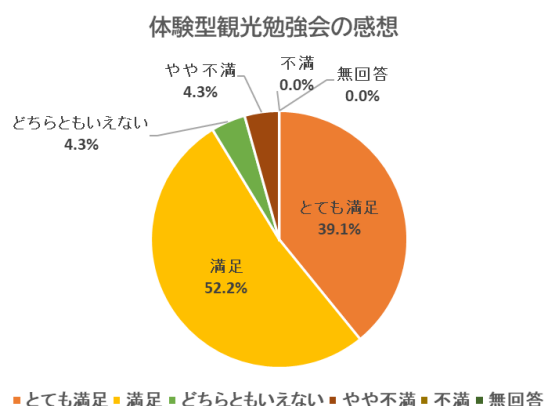
最後に出尾氏は、愛媛県には多様な資源があるものの「まだ結びついていない」と指摘し、異分野連携による共創が新たな観光価値を生むと締めくくりました。



3. 参加者アンケート結果

<本日の講演会・ワークショップの感想>

- ・「とても満足」が 39.1%、「満足」は 52.2%と、9 割以上の方が満足と回答しています。



<本日の講演会の感想(一部抜粋)>

- ・「観光誘客を住民の幸せを第一に考えるということ、ただの体験コンテンツにするのではなく、交流に重きを置くという話が参考になった。」
- ・「「風景ではなく情景」「観光で地域を再生する」という言葉に気づきを得た。」
- ・「関係人口創出や地方の日常が観光コンテンツになりうることに共感した。」
- ・「実際の現場での取り組みや経験談から、多くのヒントを得られた。」
- ・「出尾様の知見と経験に基づく具体的な話や、「今あるものを商品化するコーディネーター力」の重要性を再認識した。」

など

<勉強会から得た学びの活用方法・具体的なアイデア(一部抜粋)>

○交流体験の資源化

- ・「「やさしい日本語」講座を住民向けに実施し、外国人との交流機会を提供」
- ・「農村漁業者などとの既存のやり取りを深め、交流を活かした活動を推進」

○地域資源の活用・循環モデル・商品開発

- ・「新しいものを無理に作るのではなく、地域の生活や既存資源を活用」
- ・「未活用資源の循環利用による脱炭素モデル構築」
- ・「野草茶や草木染めなど地域資源を活かした商品・体験開発」

○広域連携・情報発信

- ・「四国・瀬戸内でのインバウンド誘致の広域連携強化」
- ・「SNS・動画・写真・口コミを活用した情報発信の重要性」

など

4. 今後の展望とアクション

●「愛媛らしい食の在り方」および「かんきつ王国」をテーマとした勉強会の開催

今後もキックオフミーティングやワークショップで出た意見を具体化するため、テーマを絞って深掘りする「勉強会」を随時開催予定です。

10月28日(火)には、「愛媛らしい食の在り方」および「かんきつ王国」をテーマとした勉強会を予定しています。

●継続的なワークショップの開催

今後も継続的にワークショップを開催予定です。2026年3月頃には成果報告会を開催する計画です。